

新緑の季節、麻布山善福寺境内のイチヨウの巨木、通称「逆さイチヨウ」が今年も若葉に覆われた。70年前の1945（昭和20）年5月25日、山の手大空襲※で被災、大きな被害を受けながらもその後70年間、たくましい生命体は毎年芽吹き続けている。

※山の手大空襲 1945年5月25日午後10時22分から約2時間にわたり、B29爆撃機が東京中部及び西部を対象に行った爆撃で、市街地の大半が焼失した。当時の資料によると「麻布区」の被害概数は死傷者303名、焼失戸数7,654戸。

麻布に生息する伝説の「逆さイチヨウ」

新旧が交錯する麻布の街で、古い方の代表格が古刹・麻布山善福寺(824(天長元)年開山)であり、「生命体」としての最長老といえ、境内に生息する「逆さイチヨウ」である。古木のイチヨウには、しばしば下向きに成長する枝(乳根・気根とも呼ばれる)ができる。鍾乳洞の天井からぶら下がる鍾乳石のようなこのユニークな形状から「逆さイチヨウ」と呼ばれるようになった(写真1)。一方、親鸞聖人が地に差した杖から成長したとの伝説のため別名「杖イチヨウ」とも呼ばれ、樹齢は800年近くと推定されている。イチヨウは雌雄が別々の木として存在する裸子植物で、このイチヨウは「ギンナン(種子)」をつけない「雄」の方であるので最長老の「おじいさん」ということになる。



「逆さイチヨウ」と呼ばれるようになった(写真1)。一方、親鸞聖人が地に差した杖から成長したとの伝説のため別名「杖イチヨウ」とも呼ばれ、樹齢は800年近くと推定されている。イチヨウは雌雄が別々の木として存在する裸子植物で、このイチヨウは「ギンナン(種子)」をつけない「雄」の方であるので最長老の「おじいさん」ということになる。

東京で最大最古の樹木として天然記念物に指定されるも後に被災

1926(大正15)年10月には国の史跡名勝天然記念物に指定された。当時の資料によると「周囲三丈(9.09米)、高さ六丈五尺(19.70米)、樹相雄大にして枝振りよく(中略)現存市内(引用者注・東京市内の意)大木中の第1位にあり。(樹齢)大凡約750年位か(中略)市内最古の老樹なり」とある。しかし19年後の1945(昭和20)年5月25日、空襲によって「高さ・樹相」共に失われてしまったのであった。木の真下から見上げると確かに被災のため主幹の上半分が失われてしまった様子がわかる(写真2)。しかし代わりに無数の枝々が大空に向かって伸びているため、案外遠目には当時と「樹高」の違いを感じないのかも知れない。

歴史を黙って語る巨木の生命力

巨木を近くでつぶさに見ると複雑な地形を思わせる多面的な顔つきを持ち、まるで木の中に森があるかのようだ。逆さに伸びた枝々の形状の他にも、幹の一部が空洞化して洞穴のように見えたり(写真3)、他の植物(棕櫚の木?)を寄生させていたりする(写真4)。太い幹の東側に



天然記念物指定当時の「逆さイチヨウ」(東京府史蹟名称天然記念物調査報告書より)



回り込むと、黒く焼けた戦火の爪痕が目に入る(写真5)。とりわけ、生命体の一部とは思えないくらいに炭化してしまった部分(写真6)もある。古木が時を止め、70年前に浴びた高熱・音・振動・臭い等を歴史の証人として無言で伝えようとしているかのようだ。

一般的にイチヨウは防火に有効な樹木として知られ、主要部分が焼け落ちるなどの損傷を受けても成長を続行、すぐに新しい枝を出す強い生命力をもつという。被災で損傷後も人の手による特別な「延命治療」を施されることなく、自らの力だけで今日まで生き延びてきたというこの木が体現しているとおりでである。かつて善福寺敷地内で防火貯水槽をつくる際、地下に張る根の長さも10メートルに至る事が確認されたという。人間とは全くスケールの異なる体内時計をもつこの巨木の余命は文字通り計り知れない。

取材協力/麻布山善福寺

参考文献

- 「イチヨウ軌跡の2億年史」ピータークレイン(河出書房新社)
- 「イチヨウの自然誌と文化史」永田敏行(裳華房)
- 「東京府史蹟名勝天然記念物調査報告書」東京府編(東京府)
- 「東京大空襲・戦災誌第2巻、3巻」(財)東京大空襲を記録する会

小さなアート

『風景印のイチヨウ』

1949(昭和24)年より開始。デザイン:加曾利 鼎造

麻布郵便局(麻布台1-6-19)限定。窓口で申し出ると「逆さイチヨウ」のデザインの風景印を押してもらえます。



(取材・文/大村公美子)

強い生命力をもつ 麻布山善福寺のイチヨウ

山の手大空襲から70年後の初夏に訪ねる



被災から70年の逆さイチヨウの衰えぬ生命力。2015年5月25日撮影

麻布びと

未来へ残したい麻布の声

全国で6万人近くいる100歳以上の高齢者。港区内にも108人(平成27年5月1日現在)の方がお住まいだ。しかし100歳を超えても仕事をもち、元気に職場に通っている方は少ないのではなかろうか。今回の麻布びと 若月英三さんは、103歳の今もなお週3日築地の会社に通う現役だ。若月さんに戦前の麻布の思い出や長寿の秘訣を伺った。

百歳を過ぎて未だ現役

軍都六本木での青春

明治44年(1911)に山梨県甲府市に生まれた若月さんは、弁護士を目指して明治大学専門学部法科に進んだ。卒業後の昭和10年(1935)に幹部候補生(経理部)として陸軍に入隊、今の東京ミッドタウンの敷地にあった歩兵第一連隊で寄宿生活を始めた。昭和11年には青年将校らによるクーデター未遂事件、いわゆる2・26事件が起こった。事件に加わって処刑された青年将校の中には、当時、若月さんが寝起きを共にしていた友人も含まれていたという。



軍人の任官票、近衛秀麿の名が見える



将校時代の決めポーズ

終戦までこの地域には、第一連隊の他、日本唯一の“モダン兵舎”と言われた歩兵第三連隊(現 国立新美術館)があり、六本木は軍人が闊歩する街だった。六本木交差点の誠志堂は都内でもただ一つの軍事書の専門店だった。第一連隊の隣には山脇女子高等学校(昭和10年11月に赤坂丹後町:現赤坂4丁目に移転)があり、休み時間にはセーラーカラーの女学生が校舎の二階から軍事訓練を見守っていた。

第三連隊入り口前(現 美術館通り北側)の西洋料理店:龍土軒(現在は西麻布1丁目に移転)は、日曜ともなれば将校で賑わい、若月さんもこのカレーライスやカツレツのファンで、よく通ったそうだ。

明治時代は文化人が、昭和には軍人の出入りも多かった西洋料理店龍土軒
写真提供:龍土軒



「六本木交差点で誠志堂書店を臨む」
(「昭和5年 日本地理風俗体系」誠文堂新光社)



家族の絆も長寿の源

10年前に妻に先立たれてからは独り暮らし。

近くに住む長男夫婦が食事の世話などをしてくれるが、部屋の掃除や身の回りの洗濯は自身でこなすという。先ほど紹介したノートには、実の娘のように親身に世話をしてくれる長男の嫁への想いが記されていた。

「老我を 勞わりくれし これこそが
長寿の秘訣 ヒロ子ありがとう」
「老我を 勞わり支える この人を
妻に選びし 秀夫ありがとう」

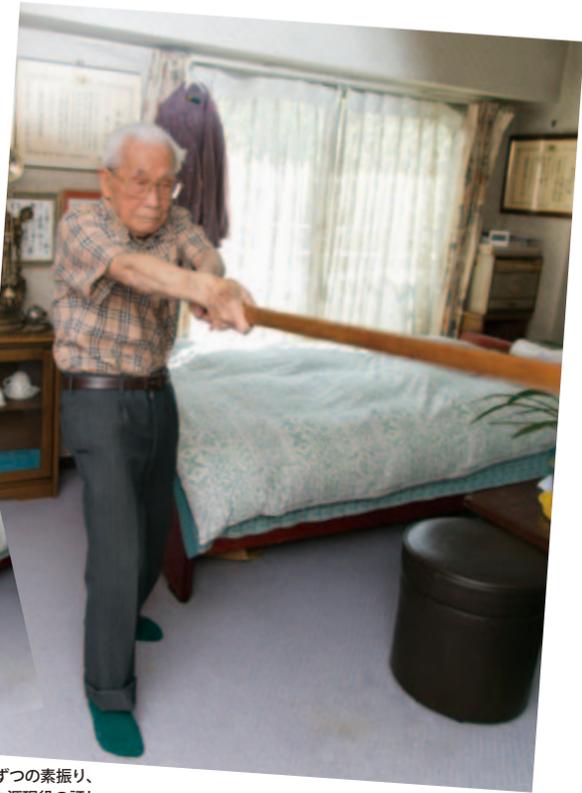
と息子への感謝も忘れない。これら2首は存命中は内緒のつもりだったと、チャーミングな笑顔を見せた。

真面目で謹厳実直な方と思いきや、前述のノートの中にこんなページを発見した。

平成27年1月 徒然のまにまに口ずさむ
『赤坂小唄』 作詞 ロマン百三
♪ 都赤坂 灯ともしごろに 一ツ木通り 人の波
月もたゆとう サカスの夜に 赤坂踊り 舞の袖
♪ 都赤坂 乃木坂あたり 昔軍都の 龍土町
今は芸術の 花の香競う トライアングル 美術館
♪ 都赤坂 ネオンの影で 誰を待つやら 夜は更ける
今夜言おうか 諦めようか 花金夜の 六本木

社会に関わり続け、ご家族の愛情に包まれ、茶目気も忘れず毎日を有意義に暮らす、あっぱれな健康百歳に、有り余る元気をもらった。

(取材・文/出石供子)



毎朝昼晩に50回ずつの素振り。締まった筋肉が生現役の証し

してきたと言うのだが、なかなかどうして、日々の暮らしを聞けば呑気者とは程遠い規則正しい生活ぶりだ。タバコは60歳でやめ、酒は飲まない。出された食事は何でも食べ、よく笑う。毎朝の体操に加えて、朝昼晩と50回ずつの木刀の素振りを欠かさないと。

常に経済動向を追うことが趣味というだけあって、経済三紙は毎日隅から隅まで舐めるように読む。新聞で気になる記事を見つけると、必ず手元のメモに書き留める。また、日記代わりに短歌を詠んでは大学ノートに書き留めている。ノート十数冊に及ぶ歌の中から最近のものを披露願うと、照れながらも大きな声で読み上げてくれた。

「総会の 近づく度に 引退を
思えど引けぬ 生涯現役」
「思いきや 百四歳も 指呼の間
行雲流水 風の吹くまま」

2首共に今春、決算を終え株主総会を前に引退を思案する揺れる想いを詠んだそうだ。



お手製のメモ帳で目に止まったことは何でも記録

総合食品株式会社
わかつきえいぞう
若月英三さん
(103) 相談役



102歳(向かって右)と103歳(左)の誕生日に詠んだ歌、生涯現役の気を吐いている

文武共に鍛えて

顧問として在籍する築地の会社に週3日出勤し、今も会社経営に目を光らせる若月さん。健康長寿の秘訣を伺うと、「今年60歳になったが、それに103年かかった」と本人は呑気に暮ら



黄綬褒章の賞状、今は亡き妻と宮中に参内した



百歳の時の敬老の日、総理大臣と都知事からお祝いが!

～まだまだある！著名人のお邸～

今号は前号に引き続き鳥居坂にあった江戸から明治・大正・昭和にかけて日本の歴史・文化に深く関わる著名人のお邸を貴重な写真と人物像から辿ってみる。

麻布

未来写真館

明治・大正・昭和をはばたく

鳥居坂②

三條邸

現在の東洋英和女学院の向かい側には三條公爵邸があった。明治維新後に太政大臣となり、内閣制度発足後には内大臣を務めた三條實美は、明治24(1891)年2月18日に麻布市兵衛町の本邸で亡くなった。その後、当主となった三條公美は、本邸を鳥居坂町一番地に移した。



平成23年：現在も堀の一部に三條邸時代の面影が残されている。

平成23年：三條公爵邸の地は、昭和初期に日本銀行の管理地となり、現在は日本銀行の鳥居坂分館等になっている。



山尾邸

現在の東洋英和女学院に土地を提供した山尾庸三は、長州藩出身の幕末から大正時代の人物であった。江戸で航海術を学び、文久3(1863)年、伊藤博文・井上馨・井上勝・遠藤謹助と共にロンドン・グラスゴーに留学し、さまざまな工学を学び、



残念ながら、山尾邸の当時の写真はないが、その場所は後に企業の事務所となっていた。出典：「近代建築ガイドブック」鹿島出版会

明治元(1868)年に帰国した。帰国後は工学関連の職を歴任し、明治18(1885)年の内閣制度発足時には法制局の初代長官を務めた。



平成23年：現在も、一部に当時の堀を残しているが、ほとんどの部分は集合住宅となっている。

三重の塔の川崎邸

鳥居坂2-1は川崎金三郎邸であった。彼は千代田生命、千代田火災等の役員をつとめた人物である。土地の所有は定徳会、後に川崎定徳合資会社となる組織である。川崎邸には塔があったらしく、東洋英和女学校(現在の東洋英和女学院)の新築工事の向こう側にその塔が頭を出している。



昭和7(1932)年：奥の三重の塔が川崎邸、手前は建築中の東洋英和女学校。写真提供：東洋英和女学院



平成22年：塔は現存しないが、手前右の堀(旧三條邸)は現在も残っている。

天文台のある小田邸

山尾邸の東側、すなわち永坂側の土地(東鳥居坂町6番地と7-1番地)は三井11家のうちの永坂町家の三井守之助邸があった。しかし、この土地は大正末年には小田良治邸となっている。三井守之助邸は永坂町一番地に移ったのである。小田良治は土地を入手するや大正13(1924)年に、アメリカ人建築家ガーディナーの設計による天文台つきの洋館を建設した。



昭和7(1932)年：中央部の丸い建物が小田邸の天文台、手前は建築中の東洋英和女学校。写真提供：東洋英和女学院



平成22年：現在のフィリピン共和国大使館



昭和58(1983)年：小田邸は、天文台もそのままに、一時フィリピン共和国大使館として利用されていた。写真提供：小山浩氏

コンドル設計の末延道成邸

現在のシンガポール共和国大使館の場所は、戦前、末延道成が所有していた。彼は三菱財閥の大幹部であり、東京海上火災の会長も務めた人物である。彼はここに、イギリス人建築家ジョサイア・コンドルに依頼して明治40(1907)年、2階建洋館を建てた。末延邸は三河台町にあったコンドル自邸とも似た、ハーフティンバー※1の住宅であった。



当時の末延邸 出典：「JOSIAH CONDER」建築画報社



平成22年：現在はシンガポール共和国大使館になっている。

三河台にあったコンドルの自邸

コンドルは、重要文化財として現存する台東区池之端の旧岩崎久彌邸の設計も行っており、上野博物館、鹿鳴館、三井倶楽部なども手がけた人物で、日本の近代建築の父と讃えられている。

明治37(1904)年5月、コンドルは三河台(現在の六本木4丁目、三河台公園付近)に800坪を超える敷地を求め、そこにハーフティンバー※1の洋館と、それに付属する和館を建てた。その後10年間、絢爛豪華な作品を含め大小幾多の設計は、ここから生み出された。



出典：「JOSIAH CONDER」建築画報社

※1：ハーフティンバー：北方ヨーロッパの木造真壁建築の技法で、半木骨造とも呼ばれる。15世紀から17世紀、英国の住宅に多用された。柱、梁、斜材(筋違)、間柱、窓台等の軸組は隠されず装飾材としての役目を兼ね、軸組の間を漆喰や煉瓦、石などで仕上げた。

「麻布未来写真館」とは

港区麻布地区総合支所では、平成21年度から区民や企業等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を運営しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存を通じて、住民の方々にとって身近な歴史・文化的な資料価値を持つ写真を保全・継承し、より一層活用することを目的としています。同時に、まちの歴史や文化をより多くの方々へ知っていただき、まちへの愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています。

未来に向けて、残し、伝えていこうとお感じになる「麻布地区の古い写真」がありましたら、港区麻布地区総合支所までお寄せください。

詳細につきましては、「協働推進課地区政策担当」までお問合せください。

お問合せ 電話：03-5114-8812



ハイチ共和国

面積: 27,750平方キロメートル(北海道の約3分の1)

人口: 1,051万人(2015年:ECLAC(ラテンアメリカ・カリブ経済委員会))

首都: ポルト・フランス

元首: ミシェル・ジョゼフ・マルテリー大統領(2011年5月就任、任期5年)

議会: 二院制(上院30議席、下院99議席)

外務省ホームページ
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/haiti/

ハイチ共和国

ジュディット・エグザヴィエール臨時代理大使
Judith EXAVIER CHARGE D'AFFAIRES A.I.

取材協力/ハイチ共和国大使館

Haiti

大使を訪ねて ③
麻布の"世界"から

ハイチ国旗は政変に伴って何度も変わっており、現国旗は1986年制定。赤はムラト(黒人と白人の混血)を、青は黒人を象徴。中央の紋章には自由と独立の戦いを表して、ヤシの木の上に「自由の帽子」、戦いの戦利品としての太鼓、ラッパ、トランペット、左右に大砲や砲弾が配されている。ヤシのふもとに文字の意味は「団結は力をなす」。

ネガティブをポジティブに変換する、エネルギッシュな国民性

ハイチ共和国(以下、ハイチと表記)はカリブ海のイスパニョーラ島の西に位置し、北海道の約3分の1ほどの小さな国です。東はドミニカ共和国。カリブ海の陽気で情熱的なイメージにふさわしく、鮮やかなオレンジのワンピースと白ジャケットでご登場のジュディット・エグザヴィエール臨時代理大使(以下、大使と表記)。スラッと背の高い女性大使です。ハイチについてのおおらかで心意気溢れるインタビューをご紹介します。

30万人もの犠牲者を出した、2010年の大地震

2011年の東日本大震災の前年、2010年1月12日、首都ポルト・フランス近くを震源とするマグニチュード7の大地震がハイチを襲い、犠牲者は22万人とも30万人とも言われ、人口の3分の1、約300万人が被災しました。当時、大使は国連や国連開発計画の仕事でニューヨークに滞在中でした。翌月から母国の避難キャンプ場を訪れ、他国のマスコミのインタビューに応じ、九死に一生を得た親戚の世話をし、培ってきた人脈を生かして復興のための資金集めに奔走する日々を過ごしました。

大使は、大地震の悲惨な現状から、単に復興と捉えるだけではなく、「もっといいハイチに建て直す」という意識を原動力に、行動し続けたと言います。その激動の年の10月、大使は在日本ハイチ大使館臨時代理大使に就任されました。



ハイチの画家デニス・ルソーによる絵画。
ハイチの色鮮やかな自然の営みを映し出す絵画は、世界的に知られる。

「将来の夢は？」と聞かれ、「ハイチで“指導的役割”を果たしたい」と答えた大使

首都ポルト・フランスで「マクト」*という組織に属する政治家の父と実業家として成功した母のもと、中流家庭で生まれ育ったという大使は「母は知る限りで最も素晴らしい女性」ときっぱり。高校卒業後、ロースクールへ進学したものの、政情不安が高まったため、アメリカの大学、大学院へ進学。人権や開発学・国際関係論などを学んだ後、ニューヨークでユニセフや国連などに勤務。愛する祖国ハイチを代表する大使として忙しい公務の合間をぬって、趣味の音楽鑑賞・ジョギング・料理・ダンスを楽しむ為、時間を割くことも忘れません。選ばれたものとしての自分の使命・役割をきちんとこなしながらも、「最高のこだわりは『全力で』生きること」と人生を謳歌している大使に、一同大いに触発されました。

「8歳位の頃、『将来の夢は？』と聞かれて自信たっぷりに『大統領』と答えました。」とにっこり。これには学校の先生も驚いたそうです。

*マクト:セキュリティや護衛部門における大統領の側近

女性が強いのはハイチの国民性？

ハイチの女性は大使のように、社会進出率が高く、それはまさに「ハイチの国民的特徴」と言えるのだそう。大使にとって世界一素晴らしいロールモデルは、母上。やれば何でも出来る、どんな苦難にもへこたれず、「No」と言わない、そんな女性の強さを、大使もしっかり受け継いでいます。

一般的にハイチでは女性の65%が職業を持ち、40%がいわゆる家長を務めています。女性が主に家計を支えている姿が一般的という点に、驚きを覚えました。

「ハイチの男性は、お酒を飲んだり、名物の焼き巻貝や魚を食べたり、綺麗な海を眺めたりして、人生を楽しむ人が多いですよ。」とユーモアたっぷりに話して下さいました。日本と同じ島国であり、海はとても綺麗で気候はとても暑く、お酒好きな人が多いので、男性は働き者のハイチ女性の労働を享受しているとも。とはいえ、男性があまり働か



ない、というよりは、ハイチという国の“大らかさ”と“情熱”を感じさせてくれました。

義務教育はなく、ハイチの子どもにとって「学校へ行くことは贅沢なこと」

ハイチではいわゆる「義務教育」の制度はなく、教育を受けられることは未だに「贅沢」という位置づけです。識字率は50%以下で、国民の57%が1日2ドル以下の生活という現状もあります。現在のミシェル・マルテリー政権でも教育の重要さは大いに認識しています。無償で学校に行かせ、教材や制服、1日1食給食を提供する、といった国の施策が5年連続で推進され、140万人が利用するなど、少しずつ前進しています。

立ち直りつつあるハイチ

大震災から5年を経て、新しいホテルやハイチ北部の工業団地の建設も進み、ハイチは100万人の観光客を迎える国にまで立ち直っています。特に力を入れているのが観光業の復興。世界有数の美しい海岸線は年間300日太陽が降り注ぐ天候のもと、魅力的なカリブ海のビーチの900kmを占めるといいます。鮮やかな色彩の衣裳に身を包んだ女性たち、天然のエッセンシャルオイル、ベチパー(インド原産のイネ科の多年生草本)の芳香…。大使おすすめの観光地は、リゾート地で有名な南部にあるアバカベイ沿いのイル・ア・バーシュ島やポルト・モルガンの海岸線。さらに歴史的遺産としてのシタデル・ラフェリエール要塞や、自然風景地としてキャンプパーリン内の滝、カイ地方の洞窟などを挙げて下さいました。

ポジティブなトークをする大使ご自身が魅力的で、「被災国」としての厳しい現実を、大使の情熱で払拭するような印象を受けました。素直に一度行ってみたい、と感じました。元気をもらった収穫のある取材でした。



ハイチの音楽コンパ等の演奏で使用されるドラム。ハイチの人たちは歌うこと、踊ることが大好き。



ハイチの女性のおしゃれは、カラフルな色遣いが決め手。



ile a Vache という小島。
大使おすすめの美しい砂浜と海で知られるイル・ア・バーシュ島はハイチ南部の沿岸部に位置する。

地域社会
の
ゆくえ
17

永久保存版 地域の防災対策を知っておこう！

今ほど様々な自然災害の脅威にさらされている時代はないでしょう。とくに麻布のような都心部では、地震やゲリラ豪雨、台風などによる被害が心配です。ふだんからできる限りの準備はしておきたいもの。家庭内の備えはもちろん、地域の対策について知ることも大切です。そこで麻布地区総合支所の職員に、避難先の場所や非常時用の公共の設備などについて取材しました。

1. 避難の流れを確認する

例えば震度5強以上の地震が起きたら、まずは自分の身を守り火の元の確認、家族の安否確認をすることが一番ですね。そして自宅に留まることに不安がある場合には、「**地域集合場所**」へ行きましょう。各町会、自治会ごとに、麻布地区内では約40か所の、公園や学校、寺の境内などの場所が決められています。ここで近所の方の安否確認や助け合い、情報確認を行います。その後、自宅に被害がなければ帰宅します。

建物が倒壊するなど、自宅での避難生活が難しい場合には、学校やいきいきプラザなど地域の防災拠点となる「**区民避難所**(地域防災拠点)」が開設されます。ここで食料や生活必需品等が配布され、数日間過ごすことになります。身体の不自由な方や高齢者で、区民避難所(地域防災拠点)での生活が特に困難な方のために「**福祉避難所**」も開設されます。これらの情報は、区公式ホームページ等で公表されます。

なお「**広域避難場所**」とは、麻布地区では有栖川宮記念公園が指定されていますが、火災の延焼の危険がある場合に逃げ込む場所です。ここで区から食料品や備品が配布されるわけではありません。

*わが家の町会や地域集合場所がわからない方は、「2.」で紹介する防災マップで確認するか、麻布地区総合支所へ直接お問い合わせ下さい。

2. 麻布地区防災マップは必携

麻布地区総合支所では「平成25年改訂版 港区 麻布地区防災マップ」を作成し、平成25年4月に各家庭にポストインで配付しました。避難先の場所や、地震発生時の行動のポイントと避難の流れ、応急手当の基礎知識などがまとめられています。家族みんながわかる場所に置いておきましょう。



手元に見当たらないご家庭は、ぜひ麻布地区総合支所でもらって下さい。



麻布防災マップ



(平成27年7月1日現在)

防災に関するお問い合わせは麻布地区総合支所へ 電話/03-5114-8802

3. 非常時用の公共の設備を知っておく

●マンホールトイレ

災害・緊急用トイレを備蓄しているご家庭も多いと思いますが、区民避難場所を含め、麻布地区内18か所に、合計110基のマンホールトイレが備えられています。これは汲み取りの必要がない下水道直結型トイレで、災害時にマンホールの蓋を開け、その上に組み立て式の仮設トイレを設置するもの。組み立ては区の職員等が来てやってくれます。



子どもが落下しないよう直径20cmと小さく、特別な工具がないと蓋は開きません。座り心地は、案外安定しています。(麻布保育園にて)

●かまどベンチ

普段はベンチとして使用し、災害時には天板である座面を外して、薪や木炭などを使って火を起し、煮炊きを行うことができます。麻布地区内では三河台公園と飯倉公園にあります。



もっと増えるといいですね。(三河台公園にて)

●災害用井戸

ふだんはいたずら防止のためロックされていますが、災害時には区の職員によってロックが外され、生活用水を汲みだすことができます。麻布地区内では三河台公園、筈公園、狸穴公園、西麻布二丁目児童遊園に設置されています。



自宅の近くの井戸を確認しておきましょう。(左:三河台公園にて 右:筈公園にて)

●土のう

大雨で川が氾濫した際、浸水から家やガレージを守るために土のうが役立ちます。ホームセンターで販売されていますが、区からも貸与してもらえます。古川沿いの公園や緑地8か所と、麻布地区総合支所にも保管されているので、心配なご家庭は問い合わせみて下さい。



1つは5~6kgと重いです。(麻布地区総合支所にて)

■	広域避難場所
■	区民避難場所(地域防災拠点)
●	福祉避難所
◆	地域集合場所
●	マンホールトイレ
■	かまどベンチ
#	災害用井戸
●	土のう

●お話を伺った方

防災危機管理室-防災係 松村 涼さん
協働推進課-土木係 都築 潤平さん
協働推進課-協働推進係 山口 一正さん



正装の執行弘道

浮世絵などに表現された市井の人の何気ない生活の美しさ、その構図や色彩は、モネ、ゴッホらの印象派の画家、ジャポニズムの絵画などに影響を与えた。それら印象派の絵画は、アメリカにフランスより多く收藏されていると言われている。そのアメリカで活躍し、その浮世絵を始め陶磁器、掛物などの日本の美を世界に認めさせるために一翼を担い、他方色々な海外の万国博覧会、国内勲業博覧会などに関わり、日本美の創造による殖産興業と国立美術館の創設を願った明治・大正時代の「サムライ」の物語である。

しぎょうひろみち
執行弘道(1853-1927)

執行弘道は、佐賀藩士族出身、嘉永6年(1853)に生まれ、佐賀藩から推薦されて大学南校(東京帝国大学)に入学、米年に留学後に外務省に勤めている。清国(中国)厦門領事館勤務、明治10年(1877)香港、三井物産の初代支店長、明治13年(1880)に日本の工芸品の輸出振興を目的とする起立工商会社の新約克支店に転職した後に支店長になる。明治16年(1883)の米年ボストン万国産業博覧会ビジネスに執行は出展者座長代行として関わり、その後は数々の博覧会に参加した。起立工商会社は、明治24年(1891)に欧州の需要をつかめず、その影響を受けて解散することになる。

執行は、明治30年(1897)ニューヨーク5番街に美術商三笑堂を開業している。

その間に執行は、明治13年(1880)にニューヨークの画家、彫刻家、音楽家、建築家、芸術家などが集まるThe Tile Club、The Century Association、The Aldine Club、倫敦日本協会、美術を普及するThe Caxton Clubに入会。The Grolier Clubで明治22年(1889)に米国で初の浮世絵の展示会を開いているが、明治29年(1896)の頒布会にはカタログに鈴木春信らの12人の浮世絵師の画に解説をつけ、ひと味違った浮世絵ビジネスをしている。

それは、多くのクラブで米国の芸術家たちとかかわり、彼らの美しさを極める姿に感化された様で、単なる工芸品から浮世絵、陶磁器、掛物などの美術に関心を生涯にわたって深めていった。一方でビジネスを通して万国博覧会、博覧会に国内外で関わり、日本の美、特に陶磁器などの殖産興業を目指して推進している。

その美への関心は、執行弘道自身が浮世絵の収集家でもあったことから分かる。浮世絵収集は日本浮世絵協会に所属し、後年に古今東西浮世絵数寄者総番付に東之方の「前頭」に列せられている。

その浮世絵への執行の見解は、大正4年(1915)の英文「日本の芸術」の中で書かれているが、卓越している。

浮世絵の誕生は、「日本の上流階級の古い芸術に対する普通の人々の反発の結果であり、芸術的独立宣言と言えるだろう」。そして、浮世絵は「人々のために、歴史、小説、詩、恋愛、旅行などをイラストし、芸術的鑑賞力をひろめ、教育し、同時に色彩版画芸術を改良し、廉価な形式で絵を楽しむ喜びと方法を与えてくれている」と論じている。この様な浮世絵にフランスの印象派の画家たちは、直感的に新鮮な魅力を感じ、浮世絵の表現にある美を発見したのである。

浮世絵と言えば、旧帝国ホテルを設計したフランク・ロイド・ライト(1867-1959)の浮世絵収集は有名で、執行に依頼し、多くの浮世絵を集めた。その浮世絵はボストン美術館に今は所蔵されている。

執行は、早稲田大学に残る大隈重信(1838-1922)宛の手紙から住所は、明治31年(1898)頃から、麻布区飯倉町1-5(現麻布台1丁目)に晩年まで住んでいた。その執行邸の別棟(大正10年(1921)築)は、ライトと交友があり、さらに島崎藤村(1872-1943)が昭和5年(1930)の「飯倉附近」の中で、雁木坂に近く大師堂のならびにライトが残した意匠の家があると書いていることから、ライトの設計であったと伝えられている。飯倉町をたずねたが、残念ながら当時の写真を見つけないことが出来なかった。

また、執行は古典本などの収集家でもあった。収集した古典本のために蔵書印を幾つか作っていたが、蔵書の表紙裏に貼る西洋のBookplate(蔵書票)も作っていた。蔵書票は蔵書印と同じであるが、その歴史が15世紀ごろにさかのぼり、ラテン語でExlibris「～の蔵書より」という意味らしい。蔵書票の特徴は、名前、好みの言葉、信念などが書き込まれ、銅版、木版、石版などの技法があり、芸術品との評価がある。執行は桜吹雪をあしらった

和風の蔵書票を持っていた。

執行は、実に機知に富んでいて、蔵書票の特色を逆に蔵書印に引用した様である。明治31年(1898)頃に飯倉町に住んでいた執行は、その邸宅が前方の飯倉狸穴町、雁木坂上、後ろの緑の多い西久保八幡神社の三方から傾斜途中の地形にあり、それを意識してか、その印章の文言を「松下水流處」(松の下、水の流れる處)としている。だとしたら執行はユーモリストでもある。早稲田大学図書館に收藏されている執行旧所蔵であった古典本に「松下水流處」、あるいは「松下水流處蔵書」の印が捺してある。

世界万国博覧会

明治23年(1890)前後に、かつて東京帝国大学の教師であった、W.E.グリフィス(1843-1928)、哲学者E.F.フェノロサ(1853-1908)、日本研究家P.L.ハーン(1850-1904)、動物学者E.S.モース(1838-1925)らが、米国の雑誌に日本の日常生活や美術などの記事を書き、日本への興味が広がっていった。

日本の工芸美術品の輸出ビジネスが盛んになり、横浜のサムライ商会、米国で京都の古美術商山中商会、浮世絵の松本文恭、陶磁器の森村組、起立工商会社、パリの美術商林忠正らが活躍を始めている。後に日本美術品を流出させたとも言われるが、執行はビジネスをしながら国内外の博覧会に関わっていく。

執行弘道は、明治23年(1890)第三回内国勲業博覧会の工業、美術部門の審査官を始めてとして、第五回内国勲業博覧会事務官及び外事課長、さらに奏任官、高等官、大正博覧会で審査官に任じられる。明治26年(1893)から大正4年(1915)の間に、シカゴ萬國博覧会美術審査官、同時に米国より絵と版画の美術国際審査員、仏国巴里万国博覧会の事務官、米国聖路易世界大博覧会の事務官、日英博覧会の美術部の金工、陶磁器、漆器の主席鑑査官、桑港市巴奈馬太平洋万国博覧会の理事官、米国からも芸術、彫刻部門審査員を嘱託されている。

万国博覧会などに関わりながら、執行は英文で、明治20年(1890)に米国の雑誌The Curio(骨董品)に「日本陶磁器の断章」、明治26年(1893)に米国の美術収集家の西洋の水彩画、油彩画や日本の陶磁器などの収集目録を編集し、その中で「日本陶磁器序論」を書いて評判を呼んでいる。明治43年(1910)英国の雑誌The Studioに「今日の日本の美術と芸術家—2—陶芸家」を大壺の写真をつけて書いている。執行は、佐賀出身だけに陶磁器などの普及に尽力をしている。また、明治32年(1899)頃、執行は圓山応挙の猛虎図などの掛物に画家、作品内容、所蔵者などの解説と写真を付けた日本美術帖(Japanese Art Folio) 7帖を完成させ、後にThe Caxton Clubの美術本頒布会でも売り立っている。米国で日本の美を広めている。

国内にあって執行はデザインの重要性に着目し、明治35年(1902)に、社会の需要に応える美術、工芸作品のデザインは、全ての実物に適用することが出来る様に中学校、小学校から教えることが良いと「圖按普及の方法」を説いている。

そして、執行弘道は、市加古、巴里、聖路易万国博覧会、日英博覧会などの万国博覧会を回顧して博覧会が開催都市を発展させ、経済活動を活性化させ、友好を促進すると述べている。それらの日本の出展物を観て日本の文明の神髄を知り、自信を抱き、また、多くの出品物が自他の利便となる様に研究し、事業発展の好機となることを望んでいた。幻となった日本大博覧会が企画された際に、執行は「永久保存の目的を以て…美術館を建設し大博覧会閉会の後はこれを以て国立美術館」と希望を述べている。日本美術の普及と保存を国内外で望み、勲五等瑞宝章を受章している。

執行弘道は、家庭内にあっては、外での善きこと、ありし事をも語ることがなく、こよなく猫を愛おしむ寡黙な人だったが、佐賀 葉隠誓願のひとつ、大慈悲心(励ましといたわりの愛)で人の為になる事を成した生涯であった。(敬称省略)

麻布の軌跡

日本の美を世界の美に…

桜吹雪の蔵書票(bookplate) 3cm×3cm位の大きさ



「松下水流處」、
「執行蔵書」の蔵書印

●参考文献

執行一平編 執行弘道年譜 平成24年補訂 執行草舟所蔵
羽田美智子編 「アメリカのジャポニズム 一日米文化交流の歩みと知られざる偉人・執行弘道—」
第2回島山公開シンポジウム報告書 ジャポニズム学会
国立公文書館 執行弘道 アジア歴史資料センターA10110074800
The Art of Japan by H.Shugio in ChapterXX p95-p101 Vol.1 Catalogue Deluxe of The Department of Fine Arts Panama-Pacific International Exposition edited by John E.D.Trask & J.Nilsen Laurvik 1915
クリフ・パーフィット著 日本最初の芸術的書票 日本古書通信 第55巻第3号
桂木柴穂著 日本における蔵書票の黎明期 私と蔵書票 第24号
谷川正巳著 フランク・ロイド・ライトの日本 光文社
島崎藤村著 飯倉附近 島崎藤村全集第十一巻 筑摩全集類聚
Note by H.Shugio in Catalogue of An Exhibition of Japanese Prints The Grolier Club 1896
Official Catalogue of Foreign Exhibition Boston compiled by C.N. Norton, Secretary 1883
Fragmentary Notes on Japanese Ceramics by H.Shugio in The Curio Sept.& Dec.1887

Catalogue of Collection of Oil painting and Water-color drawings by American and European artists and of Oriental Art Objects belonging to T.E.Waggaman compiled & edited by H.Shugio 1893
Japanese Art and Artists of Today[II]:Ceramics Artists by H.Shugio in The Studio No.210 Sept.1910
執行弘道著 圖按普及の方法 圖按 (2) 明治35年2月
執行弘道著 博覧会を動機として発展させる実例 実業之日本 第17巻第7号
執行弘道著 日本大博覧会に対する希望 新時代 第4巻第1号 明治41年1月
大隈重信侯爵序文 葉隠:鍋島論語所収 葉隠記念出版会

●取材協力:執行草舟 戸嶋靖昌記念館館長 (バイオテック株式会社 代表取締役社長) 伏木裕美子 同 事務局長 安倍三崎 同 学芸員 執行草舟氏は執行弘道の孫にあたり、人柄、年譜、蔵書印などのお話と貴重な資料の提供など、ご協力をいただきました。

小林徹飯倉町会町会長 飯倉町をご案内いただきました。



戸嶋靖昌記念館館長 執行草舟氏

平成27年度港区総合防災訓練(麻布会場)を実施します ～どなたでも参加可能です～



日時 平成27年10月18日(日)
9:30～11:30 予定

場所 港区立六本木中学校
校庭及び体育館
六本木6-8-16

「自助」意識の向上を目指そう！ ～災害時には、地域での協力に加えて、個人の備えも必要です～

私たちの住む日本の国土は、世界の他の国に比べて、地震・台風などの自然災害が起こりやすく、今までも度々大きな被害に見舞われています。生じた災害の規模が大きければ大きいほど公的支援の機能は減衰します。その状況において重要になるのは、住民一人ひとりが防災に関する正しい知識を身につけ、適切な行動をとることです。

今回の総合防災訓練では、今後30年以内に70%の確率で発生するとされているM7クラスの「首都直下地震」に被災して、多くの建物および人的被害が出たことを想定し、さまざまな訓練を行います。訓練に参



加していただくことで、一人ひとりの防災意識の向上や「被災時の確かな行動をとり、自分が何をすべきか」について考える良い機会になります。大規模災害から自分や家族の命、地域を守るためにも、ぜひ港区総合防災訓練(麻布会場)にご参加ください。



お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課協働推進係
電話／03-5114-8802
※詳細につきましては、次号(33号)でご案内いたします。

「麻布通り」の道路案内表示板設置除幕式 が開催されました

都道415号(六本木一丁目から南麻布二丁目までの都道高輪麻布線)に「※都道415号線に「麻布通り」と愛称をつける協議会」が選定した「麻布通り」が道路愛称名と命名されました。

※「都道415号線に「麻布通り」と愛称をつける協議会」は、沿道の15町会及び4商店街、区議会議員、都議会議員で構成されています。

平成27年3月30日(月)に港区麻布十番一丁目1番(麻布十番大通り入口歩道)をはじめ、沿道3箇所に道路案内表示板が設置されたことに伴い、協議会主催による除幕式が行われ武井区長が来賓として出席しました。



除幕式の様子

お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課まちづくり推進担当
電話／03-5114-8815

都税事務所からのお知らせ

固定資産税・都市計画税がクレジットカードで納付できるようになりました！(23区内)

平成27年度よりクレジットカードで納付できる税目が増えました。固定資産税・都市計画税等もクレジットカードで納付できます。パソコン・携帯電話を使って、専用サイト(都税クレジットカードお支払サイト)からお手続きください。ご自宅や外出先から時間を気にせずお手続きいただけるので、とても便利です。ぜひご利用ください。

詳しくは、クレジットカードお支払サイト(<https://zei.tokyo>)

平成27年度の固定資産税・都市計画税の軽減措置について(23区内)

- ①商業地等に対する固定資産税・都市計画税の負担水準の上限引下げ減額措置
- ②小規模非住宅用地に対する固定資産税・都市計画税の減免措置
- ③小規模住宅用地に対する都市計画税の軽減措置については、平成27年度も継続します。詳細は、HPまたは下記問合せ先へ

お問合せ／港都税事務所 固定資産税係
電話／03-5549-3800 (代表)

麻布警察署からのお知らせ

給付金等の詐欺にご注意！

平成27年度も各自治体から「臨時福祉給付金(簡素な給付措置)」や「子育て世帯臨時特例給付金」が支給される予定です(時期未定)。

これに伴い、「振り込め詐欺」被害や「個人情報調査の不審な電話」があることが予想されますので、ご注意下さい。

- 区役所等の官公庁が、給付金(還付金)の支給のために、ATMの操作をお願いすることは絶対にありません。
- 区役所等の官公庁が、給付金(還付金)の支給のために、手数料等の振込を求めることは絶対にありません。
- 区役所等の官公庁が、給付金や年金の支給のために、家族構成や銀行口座などの個人情報を調査することは絶対にありません。

※区役所等の官公庁職員を名乗って、「ATMで給付(還付)手続き」「個人情報の調査」などの内容の電話があった場合には、すぐに警察に通報して下さい。

お問合せ／麻布警察署 犯罪抑止担当 **電話**／03-3479-0110 内線2162

飲酒運転をしない、させない！！ 飲酒運転をさせないTOKYOキャンペーン 7月1日～7月7日

飲酒運転は、重大事故の原因にもなる非常に危険な行為であり、犯罪です。身体に取り込まれたアルコールは、車の運転に必要な機能低下など、重大な影響を及ぼします。

【飲酒運転をほう助する行為も犯罪です！】

- 酒類提供罪……車に乗ってきた人にお酒を提供する行為
- 同乗罪……お酒を飲んだ人に運転させたり、お酒を飲んだ人の車に乗る行為
- 車両等提供罪……お酒を飲んだ人に車両等を提供する行為

「許しません 飲んで乗る人 飲まず人」

お問合せ／麻布警察署 交通課 **電話**／03-3479-0110

麻布消防署からのお知らせ

してありますか？家具の転倒・落下・移動防止対策

東日本大震災では都内で32件の火災が発生しました。その多くが家具の転倒・落下・移動に起因するものでした。倒れてきた家具で、けがをするだけでなく火災や閉じ込めが発生する可能性があります。

自宅や職場で家具の転倒防止や配置などの安全対策を実施しましょう。

火災例

- 本棚が倒れ、本が電気ストーブに落下し出火
- 電気スタンドが倒れ、布団に接触し出火

避難障害

転倒した家具などが出口をふさぎ、出られなくなります。もしも近くで火災が発生したら…

◎東京消防庁ホームページでも詳しく案内しています。

お問合せ／麻布消防署警防課 **電話**／03-3470-0119



港区麻布地区総合支所だより



港区基本計画・麻布地区版基本計画書【平成27年度～平成32年度】に基づいて、11の地域事業を実施します

生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市～地域そして世界へつながる“AZABU”をめざして～

●麻布地区版計画書の説明

麻布地区の特性を活かしながら、地域の課題を地域で解決し、地域の魅力をより一層高めるために、麻布地区が重点的に取り組む事業について、前期3か年の地域事業を中心に立案した計画書です。



港区基本計画・麻布地区版計画書 (平成27年度～平成32年度)

地域事業

地域の課題や特性を踏まえて、3か年の年次計画を立て、目標を明確にして取り組む事業です。

6 麻布フェスタ(管理課)

地域に根ざしたまつりなどの場や行事を活用し、地域の様々な人々と協働によるイベント等を開催することにより、区民同士が地域との関わりを持つきっかけを創出します。

	27年度	28年度	29年度	計
事業費(千円)	6,994	7,000	7,000	20,994



7 麻布で“地域のちから”活性化事業(協働推進課) 新規事業

子どもから高齢者までの世代間交流や多様な主体との交流を通じて、将来の担い手となる人材の育成支援や、地域のつながりを深め、魅力あるコミュニティづくりを推進します。

	27年度	28年度	29年度	計
事業費(千円)	3,418	4,340	4,340	12,098

8 地方交流事業(管理課)

地域の人々が主体的に続けてきた地方都市との地域間連携活動を側面支援していきます。また、地域活動に接点の少ない区民の方々に、地域が歴史的に深めてきた交流活動に関わる機会を増やすとともに、区民協働スペースや、地域のまつりなどの場を生かした交流イベントを区民との協働により企画します。

	27年度	28年度	29年度	計
事業費(千円)	2,914	4,500	4,500	11,914

9 地域サロン(ちょこっと立ち寄りカフェ)(区民課)

高齢者が住み慣れた地域で孤立することなく、安心して自分らしくいきいきと生活できるよう気軽に集い学べる場を提供するとともに、地域におけるボランティアを養成し、地域住民が互いに支え合う仕組みづくりを支援します。

	27年度	28年度	29年度	計
事業費(千円)	3,401	3,432	3,432	10,265

10 おもちゃライブラリー(管理課)

子育て支援事業の一環として、乳幼児を対象とした良質なおもちゃの提供と普及をめざし、おもちゃの貸出事業の実施、おもちゃの選び方や子育てに関する情報等についての講演会を開催します。

	27年度	28年度	29年度	計
事業費(千円)	494	494	494	1,482



11 あざぶ達人倶楽部(協働推進課)

麻布地区の魅力を高めていく活動を担う人材を発掘・養成するとともに、自主的な活動を展開できるように支援します。

	27年度	28年度	29年度	計
事業費(千円)	7,092	7,223	7,223	21,538



歩学(まち歩き)

問合せ/麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当
電話/03-5114-8812

1 六本木安全安心プロジェクト(協働推進課) 新規事業

町会・自治会、商店会、事業者等と連携・協働により制定した地域独自ルール「六本木安全安心憲章」の更なる周知・浸透と憲章内容を実現するための取組を実施します。



	27年度	28年度	29年度	計
事業費(千円)	2,294	3,710	3,400	9,404

2 防災ネットワーク構築事業(まちづくり担当)

事業者、防災住民組織、行政等が災害の発生時に、連携を円滑に行うことが可能なネットワークづくりを支援・育成します。



事業所防災ネットワーク会議

	27年度	28年度	29年度	計
事業費(千円)	3,003	3,140	3,140	9,283

3 みんなでエコっとプロジェクト(まちづくり担当) 新規事業

地域の子どもたちが自然や生きものを大切にする心を育ていくために、企業・地域団体等と連携して「見る」「知る」「体験する」機会を創出します。



	27年度	28年度	29年度	計
事業費(千円)	605	820	820	2,245

4 麻布未来写真館(協働推進課)



パネル編集

麻布地区の昔の写真を収集するとともに、定点写真を撮影し、パネル展の開催やインターネット上への公開を通じて麻布地区の歴史や文化を発信します。

	27年度	28年度	29年度	計
事業費(千円)	4,056	4,680	4,900	13,636

5 麻布国際ふれあい事業(協働推進課)

麻布地区内の大使館や大学・関係団体等と協働して、麻布地区に住む、訪れる外国人との多様な交流機会を創出し、麻布の魅力を高める取組を実施します。

	27年度	28年度	29年度	計
事業費(千円)	3,394	3,400	3,400	10,194



外国人向け周知チラシと英語版麻布地域情報紙

ザ・AZABUへのご意見・ご要望をお寄せください

ご住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・ご意見・ご要望(日本語又は英語、字数・様式自由)を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課へ。
●電話/03-5114-8802 ●FAX/03-3583-3782

編集委員を募集しています

地域情報紙「ザ・AZABU」はホームページからもご覧になれます。



「ザ・AZABU」は英語版も発行しています。

ザ・AZABU

●配布設置場所のご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書館、南麻布・ありす・麻布・西麻布・飯倉の各いきいきプラザ、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief 田中亜紀
Sub Chief 高柳由紀子
Staff 出石供子 寺尾周祐
大澤佳枝 森 明
大村公美子 山下良蔵
折戸桂子 渡辺久剛
田中康寛

編集後記

私は「地域の防災対策」の取材に参加しました。まず、支所で「防災マップ」の説明を受けました。マップは「25年度改訂版」が必要です。古いものしか持たなかった私は、はじめはピンぼけ状態でした。次に、外に出ているいろいろな設備の組み立てを見学しました。路上にはめ込まれた鉄製円形ふたや、鉄製ベンチとしか見えなかったものが、区の方々によって防災設備に変わるのを見て驚きました。皆様方のご努力と献身に感謝いたします。(折戸桂子)

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします!

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。年中無休/午前7:00～午後11:00 ※英語での対応もいたします。

電話/03-5472-3710 FAX/03-5777-8752
Eメール/info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service
Minato call is a city information service, available in English every day from 7 a.m. - 11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; E-mail: info@minato.call-center.jp